

\*一般的に「聖」、「聖(きよ)い」は、汚れがないとか、清廉潔白というイメージである。しかし聖書では「聖」は本来神の基本的なご性質のことである。

「あなたがたを召してくださった聖なる方になって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。それは、「わたしは聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ」と書いてあるからです。(Iペテロ1：15～16)「聖」とは「完全」という言葉に近い。

\*「聖」には、このことばの語源から、「分離する」「切り離す」という意味がある。神はこの世の創造者であり、世は被創造物である。両者ははっきり分離されている。しかし、被創造物(俗)が神(聖)との特別な関係に置かれるとき、俗なる物から切り離されて聖とされることがある。聖餐式で用いられるパンとブドウ酒の例のように。同じように、私たち人間は本来罪びとであり、聖でありえない存在であるが、神が送られたイエス・キリストを信じる者を神が特別に愛をもって私たちに聖とし、「聖徒」と呼んでくださるのである。

「傷のない者にされる」の傷とは、魂の傷のことで、神の前に出ても何の非難もされないことを指す。絶対的に正しい方である神の前でも非難されずに済む人は一人もいない。しかし、傷のない者とみなしてください。それ故、「聖い」と「傷のない」とは同じことを意味する。

\*神は私たちに、ご自分と同じように聖くなってほしいと願っておられる。私たちはイエス・キリストを信じたからすぐに聖くなるわけではなく、生涯の信仰生活で求め続けていかなければならない目標である。

「聖く」なるためには、忙しくても聖さのために「時間を取る」ことが必要である。時間を取って完全な聖さをもっておられる神との交わりを持つこと。祈りとみ言葉の時間をより多く持つこと。そして、人との交わりと奉仕も大切に。クリスチャンとの交わりを持ち、互いに励まし合うことも大切であるが、俗世界やクリスチャンでない人たちとの交わりも必要である。この世のことや人の考えを知らなければ、福音を伝えることはできない。

\*聖さを求めていくと増々罪が示されていく。しかし、それらの罪は赦されるので、聖められていき、キリストに似たものとなっていくのである。この世において「成熟」に近づき、いずれ永遠の都に入り、永遠のいのちを味わう完全な聖さの入れられるという約束を信じ、喜びと希望を持って歩みたい。